

●三重県の認知症施策について

・施設は、コロナに対してかなり脆弱であり、社会資源が崩壊していく可能性もある。このような状況下において、県として、どのような施策を考えているのか。

⇒（事務局）

・かがやきプランの「4安全安心のまちづくり（6）感染症に対する備え」の部分において、記載する予定である。

・コロナの影響で、認知症が医療分野のなかでも特に影響を受けている。精神科病院や高齢者施設でクラスターが発生した事例の現状把握、情報共有し、それに対してどのような対策を講ずるかということが第一歩である。

●みえ高齢者元気・かがやきプランについて

① e-モニターアンケート調査結果について

・認知症疾患医療センターの認知度が低い。どこに問題があるのか今後検討していく必要がある。

・e-モニターは、どのような人が回答しているのか。どのような制度か。

⇒（事務局）

・回答者は、事前登録となっており、登録期間は3年である。3年ごとに登録者は変更になるので、同じ対象者で調査ができないデメリットがある。

② 認知症施策（県の取組）に係る記載内容（案）について

・SIBの関心のある市町の数はどれだけあるのか。たくさんの市町で実施してほしい。

⇒（事務局）

・市町報告会において、すべての市町に事業について説明し、関心がある2市町とともに、勉強会を開催している。

・コロナの影響により、キャラバンメイト、サロン、サポーター養成講座等が実施できていない。そのため、どのような基準で開催されているのかお聞きしたい。

- ・オンラインでの開催も考えられるが、機器操作が困難であるため、本人、家族は参加できない。しかし、ZOOMのブレイクアウトルームという機能を使えば、ICTキーパーソン一人いれば、その人が核になって、少人数でグループ討論ができる。

⇒（事務局）

- ・来年度、国がサポーター養成講座をオンラインで実施できる教材を作成すると聞いているので、注視していくこととしたい。

- ・昨年度、チームオレンジのモデル事業として、亀山市、伊勢市と関わらせもらった。今後、コロナの影響があっても、全市町にチームオレンジを設置という考えであるかどうか。

⇒（事務局）

- ・認知症施策推進大綱で全市町の設置が目標となっており、県として、大綱に掲げる期限（令和7年）までに設置したいと考えている。市町が設置することになるので、市町の意向も踏まえて考えていきたい。

- ・若い認知症の人の施設があるとよい。
- ・今までと同じように外出支援の充実（ガイドヘルパー等）をお願いしたい。
- ・軽度認知症の方へのスマホ・タブレットの普及推進。機器購入の一部行政負担制度の創設。
- ・三重県内の各地域で、同じような仲間が集う場が欲しい。
- ・子どもたちへの認知症の啓発。
- ・安心して散歩ができるバリアフリーの道の設置。

- ・e-モニターアンケート調査項目の「認知症になっても、できないことを自ら工夫して補いながら、今まで暮らしてきた地域で、今までどおり自立的に生活できる」という文言を計画のなかで使用してほしい。

- ・「地域版希望大使」の設置とその活用とあるが、大使の候補はいるのか。

他府県でも同様の大使が任命され、活躍されているので、三重県でもぜひ進めていただきたい。

⇒（事務局）

- ・本人発信支援という部分から進めていきたい。本日の会議も、ご本人に委員として参画していただいた。

- ・医療、介護、福祉関係者は、リスクを負いながら、活動を広げていくことが難しい状況。

- ・まずやるべきことは、コミュニケーションの回復をどのようにしていくかだと感じている。

- ・サポーターが高齢化している。学校や職域でのサポーター養成が必要であり、社会全体で取り組む必要がある。

- ・第8期の項目設定について、どのように決められたか。項目を分類しすぎてしまうと、支援が少ないというイメージが抱かせることがあるので、考慮いただきたい。

- ・介護保険申請のみで、サービスを利用しない方がいる。介護保険の良さを理解していただきたい。

- ・多忙なケアマネージャーへのサポートという視点も考慮いただきたい。

- ・病院の家族会については、県の指針に従い、密を避け、再開している。

⇒（事務局）

- ・項目については、国からの指示ではなく、国の基本指針等を勘案して、提案させていただいた。さらに検討したい。

- ・オンライン研修を実施するためには、実施する講師陣のスキルが必要である。

- ・コロナ渦で、寄り添いながら、どのようにしていけばいいか考えていきたい。

- ・計画においても、成年後見の記載がある。計画では、2021年度に全市町に中核機関を設置することとなっているが、現在、4市町であるため、目標達成できるか危惧しているところである。

- ・県内の成年後見のサポート体制が必要である。

- ・感染予防対策について、認定看護師が施設への研修等の協力ができる。

- ・サロンが再開し、ご本人は、直接会うことができることを喜ばれている。一方で、近隣でコロナが発生すると、誹謗中傷などもあり、地域包括支援センターが相談対応している。

- ・チームオレンジのサポーターの地域活動が課題である。組織的に活動するのが難しい現状があり、サポーター個人として、本人に寄り添い支援していくという視点も大切である。

●その他

- ・医療機関で、付き添いの人（介護職員）が受診同行できない事例があった
 - ・医療機関の対応はありえない話であり、県としても、情報発信をお願いしたい。

 - ・認知症の方は、マスク、手洗いがむずかしいので、良い対策はないか・マスクをしなければ、確実に感染が拡大する。
 - ・習慣化していない人には、スタッフが協力してもらうよう説得している。

 - ・市町でオンライン会議が開催されているが、国、県の市町への支援が必要。

 - ・認知症の方が、コロナ罹患した場合、隔離するのが難しいと考えるが、三重県での対応は考えているのか。
- ⇒（事務局）
- ・三重県の場合、新型コロナウイルス陽性の方はすべて原則入院していただいている。

 - ・まずは、一般の総合病院に入院してもらい、精神的な対応が必要な問題が生じた場合には、その都度、精神科病院へ転院する仕組みはある。